



女子1000mを世界新記録で優勝した小平奈緒(中央)。左は2位の高木美帆=10日、米ユタ州ソルトレークシティ(時事)

美帆、1500日本新4連勝

W杯 小平1000世界新、日本女子初

【ソルトレークシティ(米国)】スピードスケートのワールドカップ(W杯)第4戦、ソルトレークシティ大会第2日と最終日は9、10の両日、米ユタ州ソルトレークシティで行われた。女子1500mで平昌五輪(来年2月・韓国)の日本代表選出を確実にしている高木美帆(日体大助手)1日体大、帯南商高出)が1分51秒49の日本新記録で優勝した。3日のW杯第3戦のカルガリー大会で出した自身の1分51秒79を更新し、同種目4連勝とした。高木美帆は1000mでも1分12秒63の好タイムで2位に入った。

女子500mは小平奈緒(相澤病院)が36秒54で優勝し、この種目での連勝を15に伸ばし、通算16勝目。1000mも1分12秒09の世界新で制し、計18勝となった。日本女子選手で単種目で世界記録を樹立するのは初めて。郷里里紗(イコテツ)山梨学院大、白樺学園高出)は500mで37秒05で3位となり、通算4度目の表彰台に立った。神谷衣理那(高宮建設)37秒53で10位、辻麻希(開西病院)は11位、同3000mの高木菜那(日本電産サンキョー)帯南商高出)は8位だった。

男子500mは山中大地(電算)が34秒28で8位。34秒21の加藤条治(当時日本電産サンキョー)の日本記録に迫る好記録だった。羽賀亮平(日本電産サンキョー)日大、白樺学園高出)は34秒58で16位。優勝は34秒02のルスラン・ムラシヨフ(ロシア)。格下のBクラスでは後藤卓也(福井県体協)日大、帯南商高出)は13位だった。同1000mは小田卓朗(開発計画研究所)の15位が日本勢の最高だった。

同1500mはデニス・ユスコフ(ロシア)が1分41秒02、同5000mはテッドヤン・ブローメン(カナダ)が6分1秒86で共に世界新記録で優勝した。(記録は後日掲載)

古武術からヒントを得て一本歯のげたを履き、前傾姿勢を保つ練習でバランス感覚を養った。また、競輪用の自転車を使って一気にスピードを上げる走法で体幹を強化。元五輪代表の石沢志穂さんのサポートを受け、食事を徹底管理して理想的な肉体をつくり上げた。

「力の伝わり方が内に向いてきた。全ての動きがつながっている感じがある」。今季は流れるような脚の動きで無駄なく氷を押し、圧倒的な速さを身につけた。

1000mは短距離種目であるが、中距離の能力も求められる。氷上では1500mを想定し、一定のスピードを保つ練習もこなし

「楽にラップが出せる」。2010年バンクーバー五輪では1000mと1500mで5位入賞の小平に、粘りが戻った。

古武術からはレースへの心構えも学んだ。「ライバルがいてもいなくても一緒。ただ自分の動きをするだけ」。同組で滑った高木の勢いにのまらず「やりたいたいスケート」を氷上で表現した。狙って樹立した世界新記録。500mで逃した快挙を、高速リンクで滑る今季最後のレースで達成した。

美帆、不満残す

▽女子1500mで6日前につくったばかりの日本記録を自ら塗り替え、高木美帆はリンク上でガッツポーズ。しかし、レース後は「悔しきの残るレースだった」と反省の言葉を口にしていた。

前戦のカルガリーでは余裕を持ったペース配分で日本新をマーク。今回は最初の700mのペースを上げるプランだったがタイムは前戦とほぼ同じだった。今後は、スピードを上げるための練習を取り入れるという。

W杯4戦4勝としても「ここで勝っているから、平昌五輪でも勝つとは考えていない」。最高峰の舞台には万全を期して挑む。

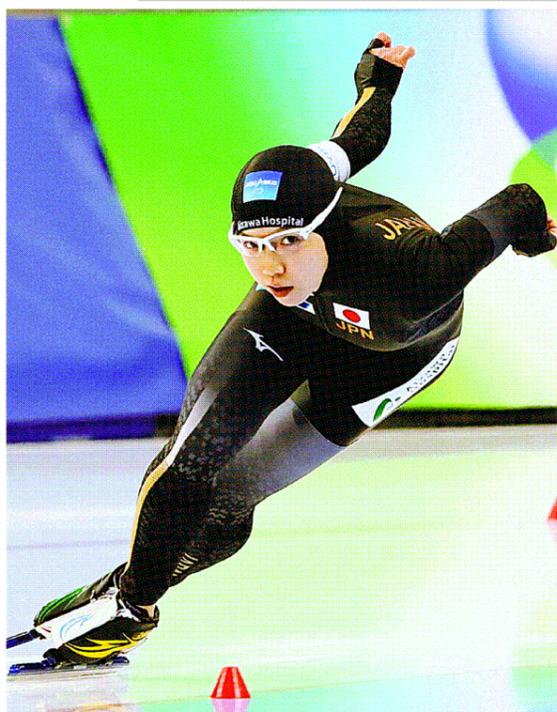
1000mでは自己ベストを見せたが、同組で滑り世界記録をマークした小平にスタートから離され、600mの通過タイムでは1秒以上遅れるなどスピードの違いを痛感しての2位だった。「悪くないレースをしたと思えるからこそ完敗だった。力の差を感じたことが悔しい」と、負けを認めるしかなかった。

追い抜きメンバール

佐藤が足指骨折

▽女子マスタート

で、佐藤綾乃(高崎健大)が他選手と接触して転倒。日本連盟によると、ソルトレークシティの病院で検査を受け、右足親指骨折で全治3〜6週間と診断された。佐藤は8日に団体追い抜きメンバーの一員として世界新記録での優勝に貢献。W杯開幕戦へレインフエイン大会では、マスタートで個人種目初勝利を挙げている。



女子1000mで1分12秒09の世界新記録をマークした小平奈緒=10日、米ユタ州ソルトレークシティ(時事)